



漂着ごみの収集の様子

(特非) 能登半島おらっちゃんの里山里海

能登の”里海” 文化の継承と保全

つり環境ビジョン
助成

1年目

実践

漂着ごみモニタリング
調査の参加者数

45人

里海ワークショップの
参加者数

51人

活動の全体目標に
対する達成度

18%

課題

世界農業遺産に認定された「能登の里山里海」について、その魅力や重要性について住民自らが実感し、あわせて次世代に継承していく取り組みを住民ベースで創出すること。

活動内容

「里海」の環境や文化を、「知る」活動、「守る」活動を中心に、住民にかかわっていただき、子ども達には「里海」を楽しむことを実感してもらうことに取り組んできた。「知る」活動として、能登半島最先端の海岸に漂着するごみを収拾し、その分類を行うことで、そのようなものが漂着しているのかを住民に知ってもらった。併せて海岸の植物に集まるアサギマダラの捕獲調査や港周辺での釣り大会を子どもたちとともに実施した。



海岸周辺での
アサギマダラ調査

今後の課題

事業の目的からも、多くの子ども（児童生徒）の参加を目指しているが、学校行事との調整が今後も難航することが想定され、なるべく早い段階でのスケジュールリングと協議が必要。

成果と工夫した ポイント



成果

海岸清掃は連携組織（学校・青年団）としての参加は実現しなかった。里海文化体験の参加者からは、「豊かな里海」を実感した意見が多かった。

工夫

漂着ごみの収集・モニタリングについては、連携団体として能登海上保安署の協力を得ることができた。